

最近の経済動向

令和3年11月号

(北海道の景気動向～令和3年9月の経済指標を中心として)

持ち直しの動きが鈍化している

■生産動向

- P1 生産活動(鉱工業生産指数)
持ち直しの動きに弱さがみられる

■需要動向(消費・投資)

- P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている
- P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直しの動きに弱さがみられる
- P7 公共工事(公共工事請負金額)
おおむね横ばいとなっている
- P8 観光(来道者数、来道外国人数)
弱い動きが続いている
- P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を上回った

■企業倒産

- P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数、負債総額とも減少した

■雇用動向

- P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きが広がっている

■物価動向

- P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を上回った

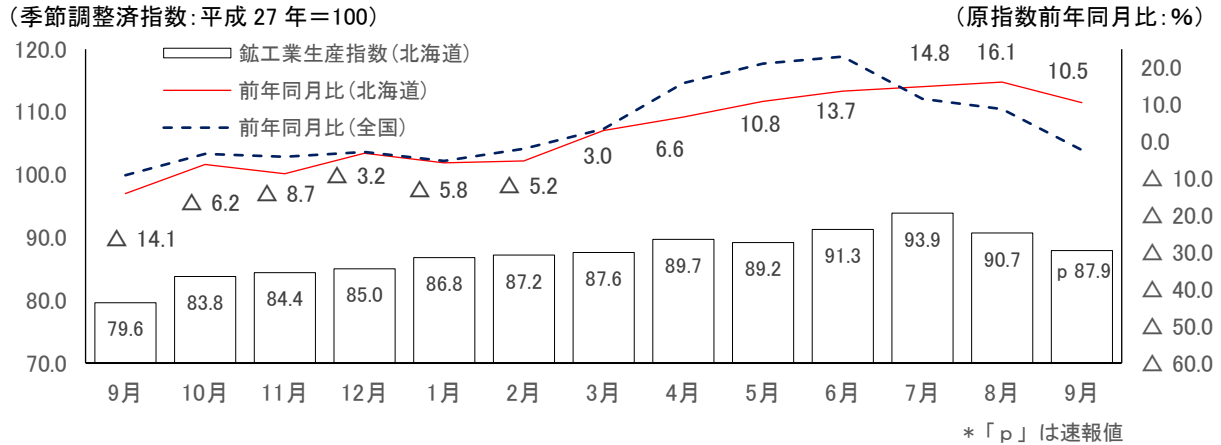
■企業の業況感

- P16 企業経営者意識調査
前期から下降している
- P17 企業のみなさまから伺いました

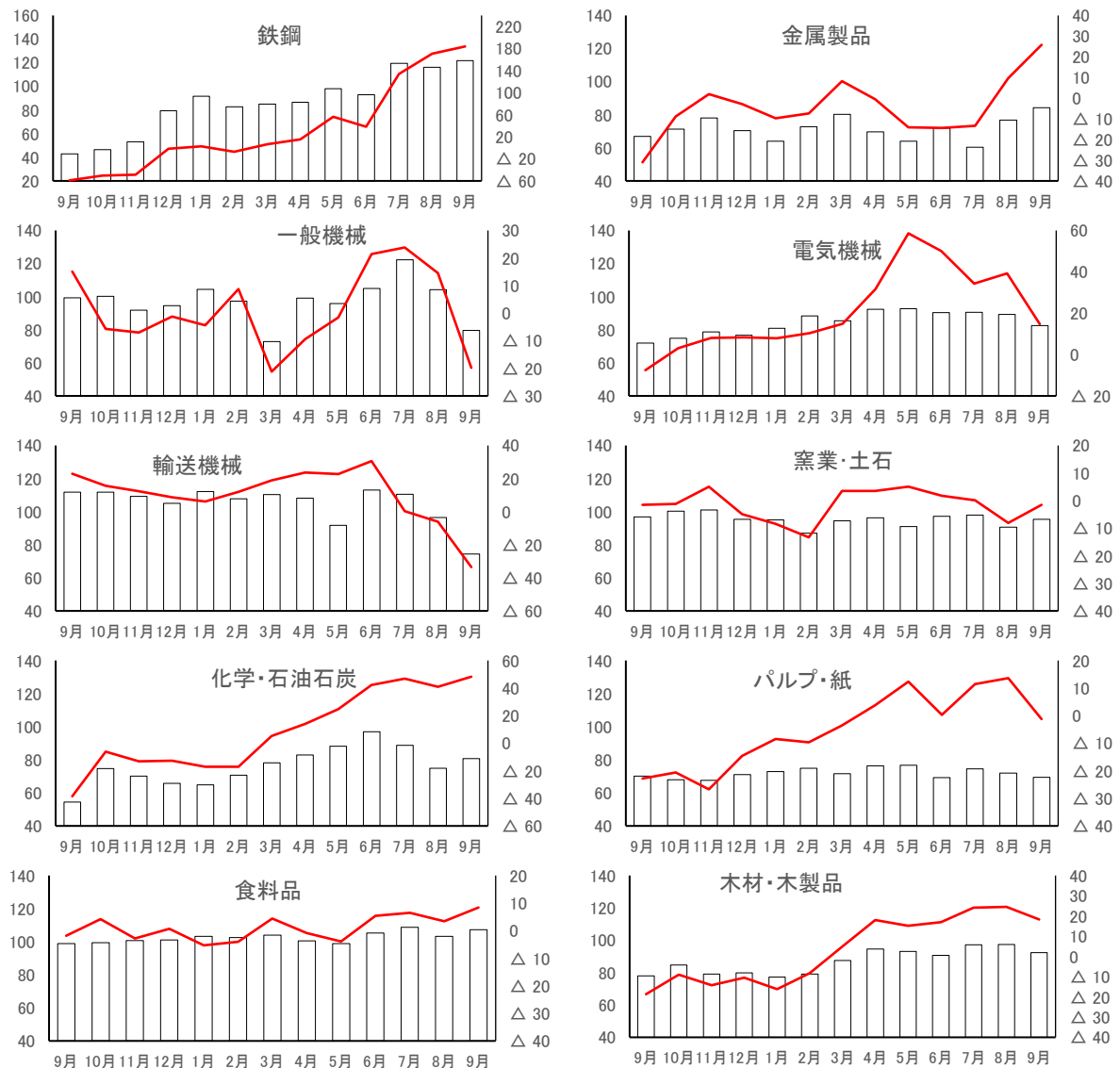
生産活動～持ち直しの動きに弱さがみられる

鉱工業生産指数（9月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、87.9で前月比▲3.1%(2か月連続で減少)であり、原指数による前年同月比は、10.5%(7か月連続で上昇)となった。業種別にみると、一般機械工業など8業種が前月比低下、食料品工業など7業種が前月比上昇となった。



■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

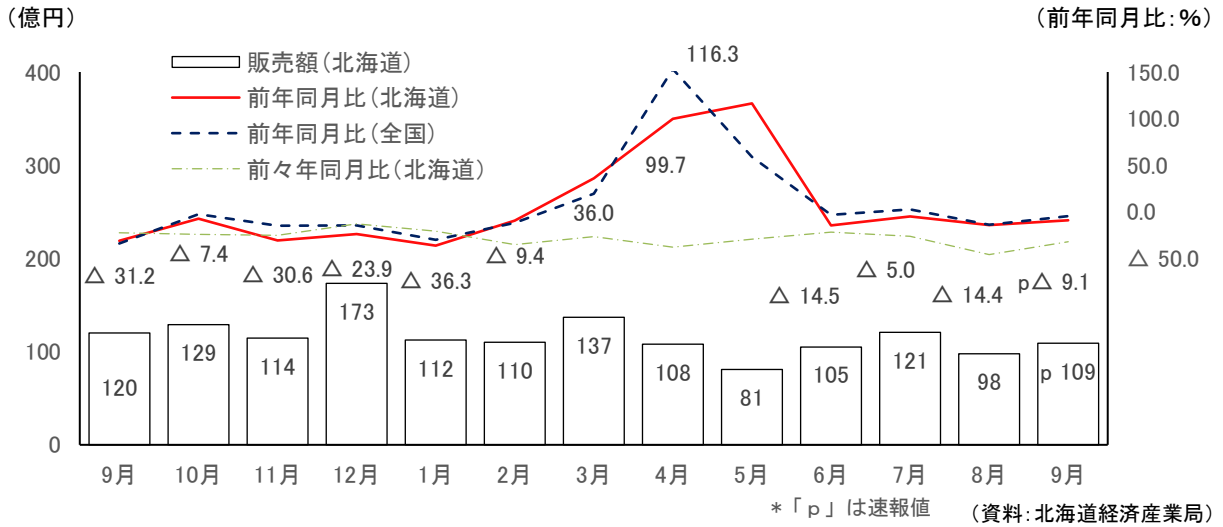


(資料:北海道経済産業局)

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

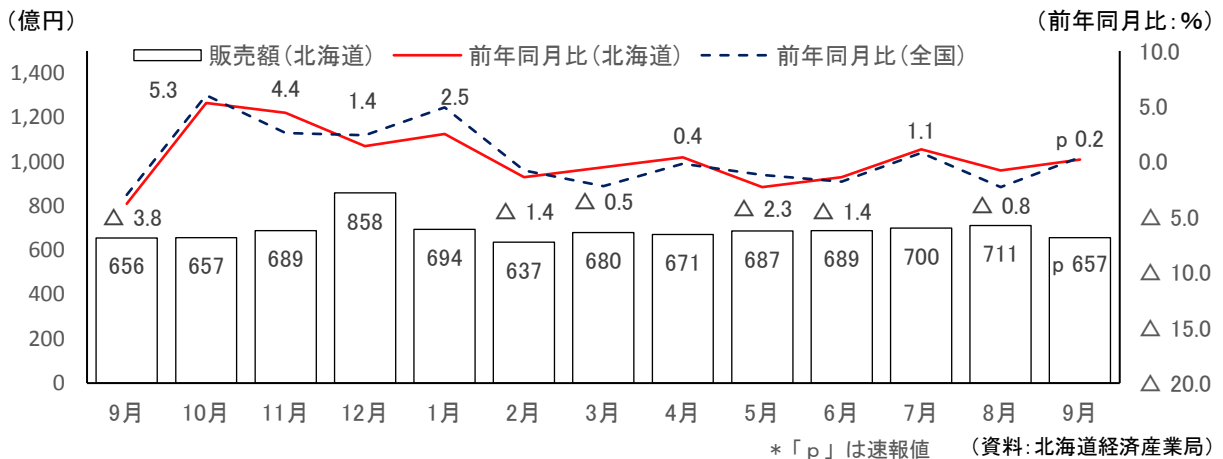
百貨店販売額（9月）

百貨店販売額は、109 億円で前年同月比 9.1%の減少となり、4 か月連続で前年を下回った。



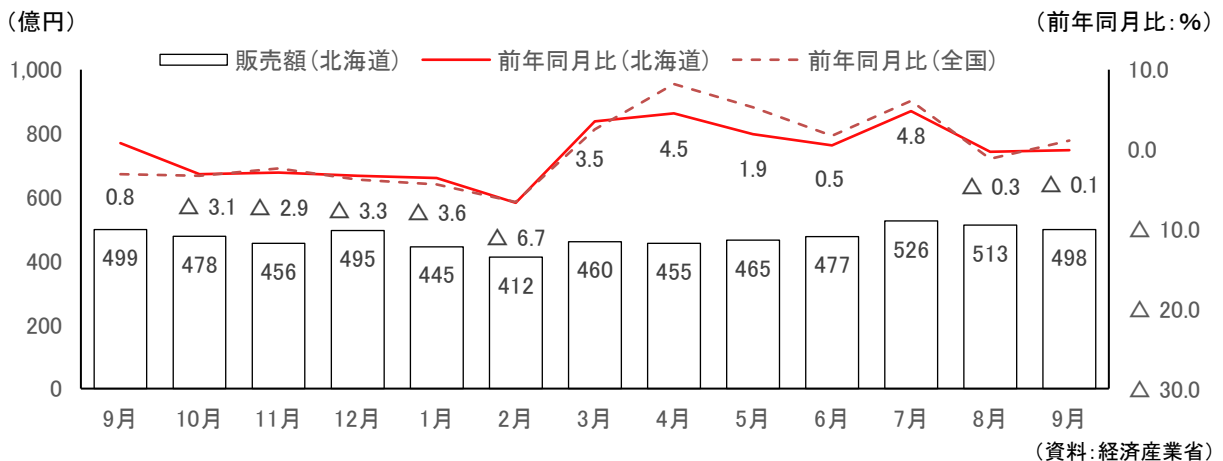
スーパー販売額（9月）

スーパー販売額は、657 億円で前年同月比 0.2%の増加となり、2 か月ぶりに前年を上回った。



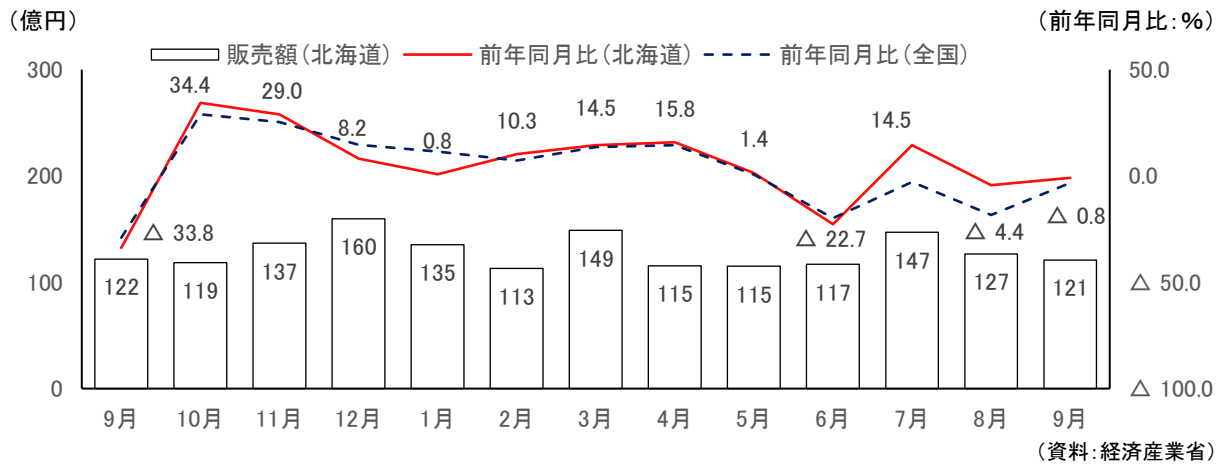
コンビニエンスストア販売額（9月）

コンビニエンスストア販売額は、498 億円で前年同月比 0.1%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。



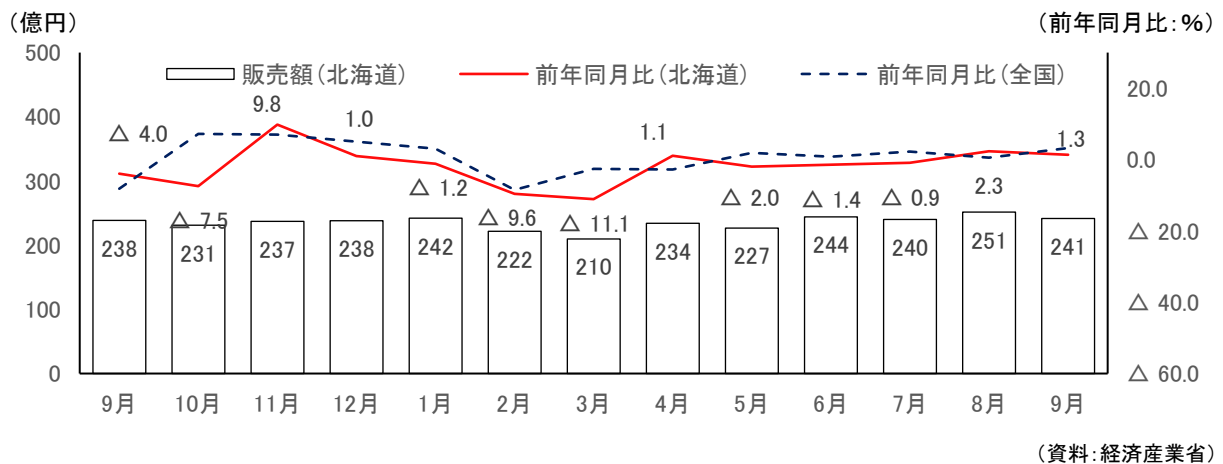
家電大型専門店販売額（9月）

家電大型専門店販売額は、121億円で前年同月比0.8%の減少となり2か月連続で前年を下回った。



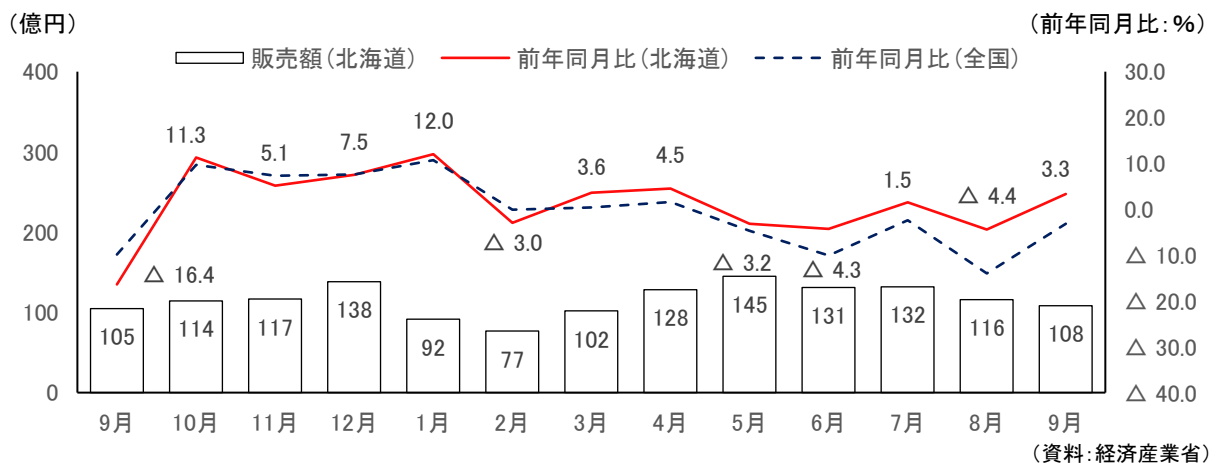
ドラッグストア販売額（9月）

ドラッグストア販売額は、241億円で前年同月比1.3%の増加となり、2か月連続で前年を上回った。



ホームセンター販売額（9月）

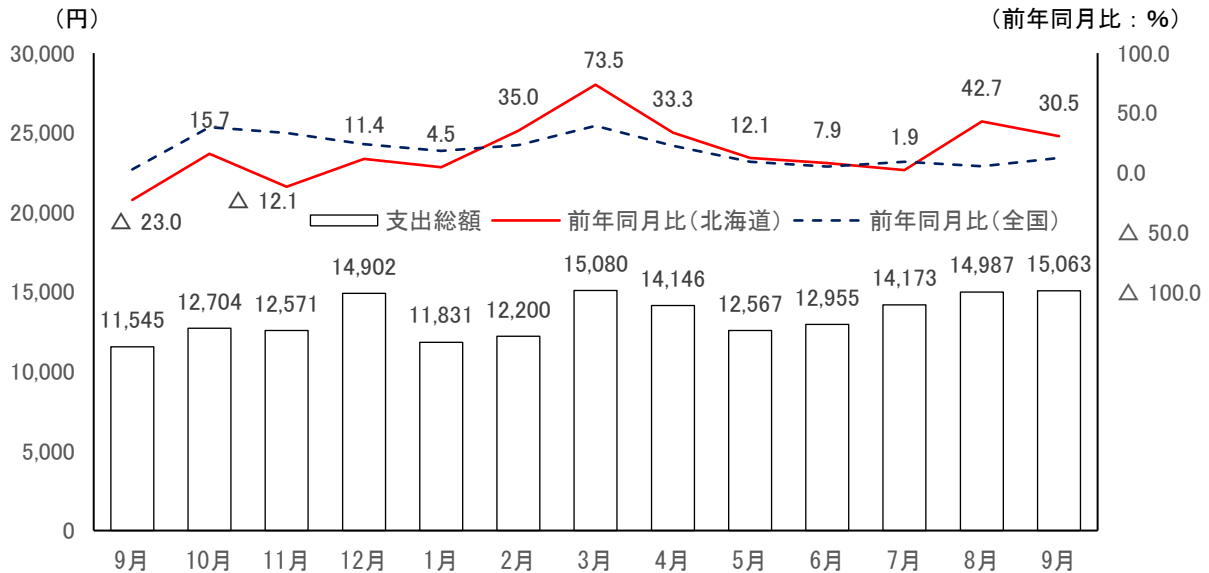
ホームセンター販売額は、108億円で前年同月比3.3%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



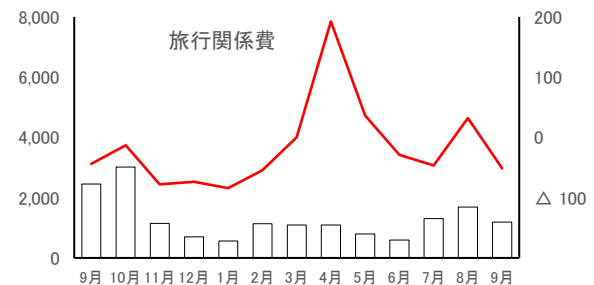
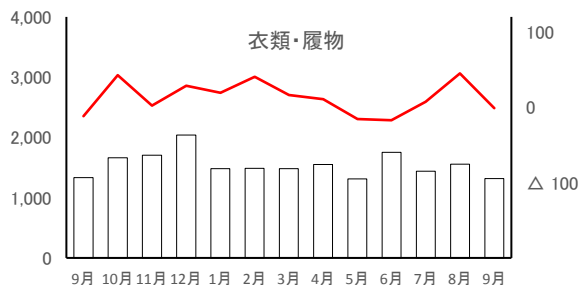
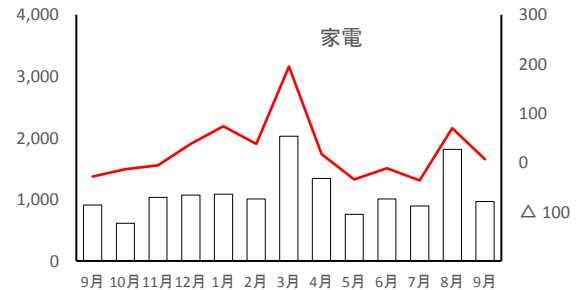
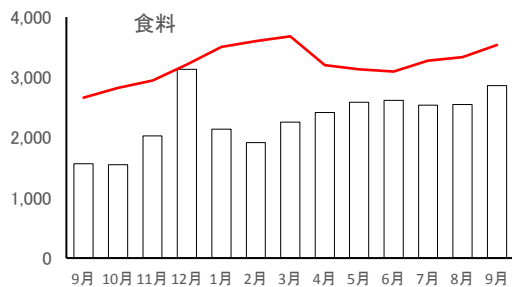
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（9月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は15,063円で、前年同月比30.5%の増加となり、10か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、食料は2,863円で前年同月比83.1%の増加、家電は968円で同6.4%の増加、衣類・履物は1,319円で同1.2%の減少、旅行関係費が1,190円で同51.4%の減少となった。



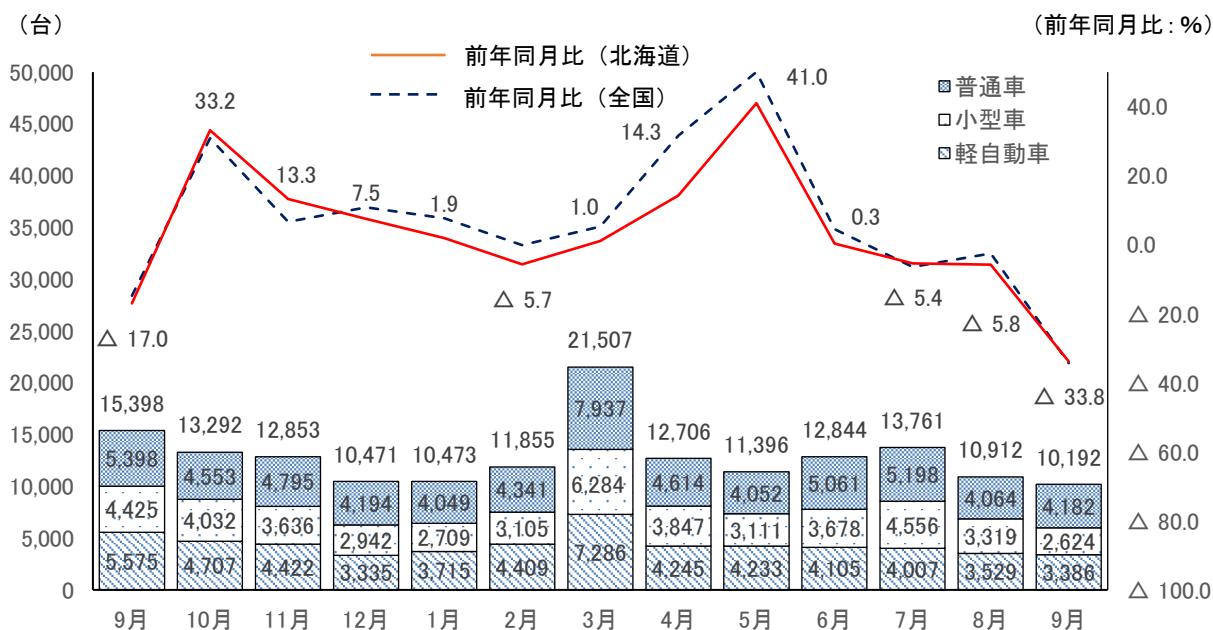
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



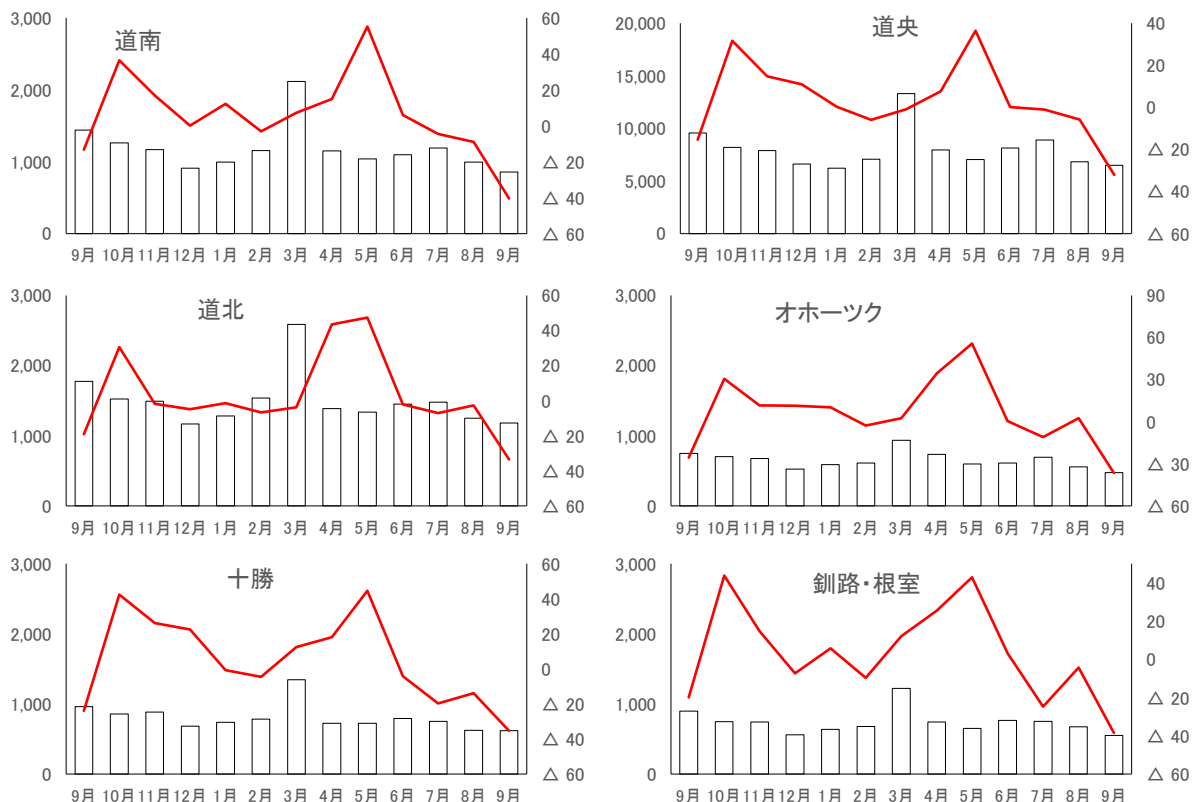
(資料:総務省)

新車登録台数（9月）

新車登録台数は、10,192台で前年同月比33.8%の減少となり、3か月連続で前年を下回った。
 車種別にみると、普通車は、4,182台で前年同月比22.5%の減少、小型車は、2,624台で同40.7%の減少、軽自動車は、3,386台で同39.3%の減少となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）



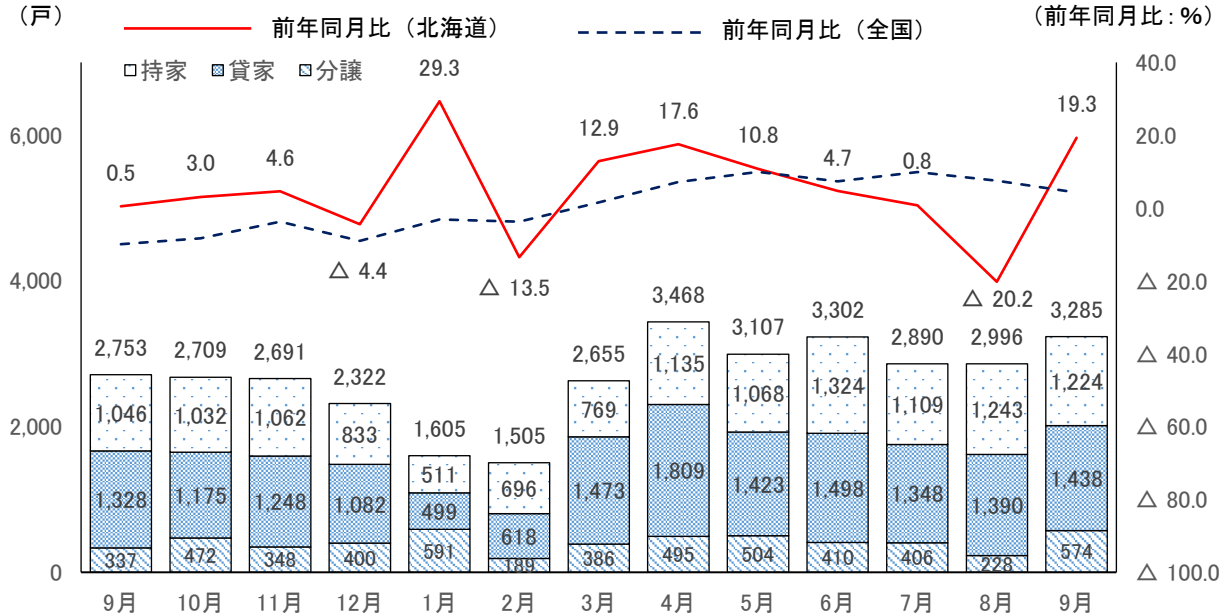
(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

■住宅建設～持ち直しの動きに弱さがみられる

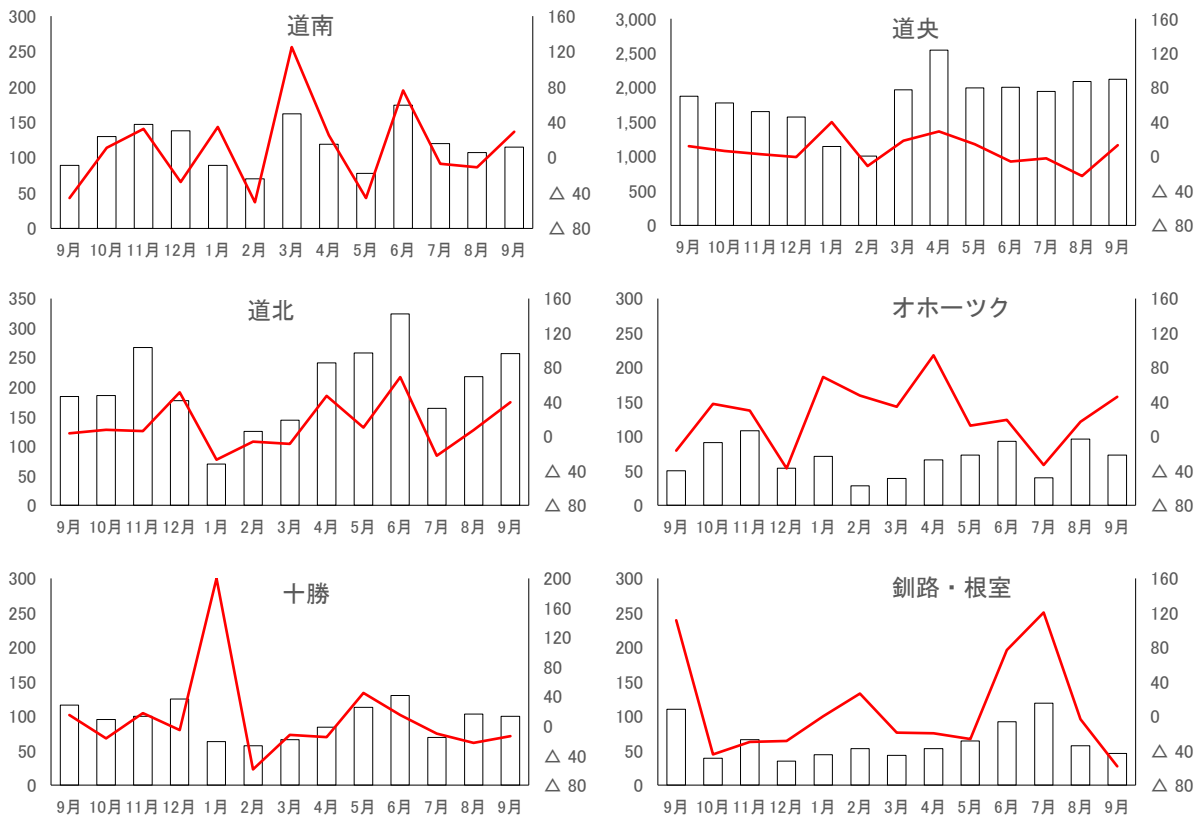
新設住宅着工戸数（9月）

住宅着工戸数は、3,285戸で前年同月比19.3%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別にみると、持家は、1,224戸で同17.0%の増加、貸家は、1,438戸で8.3%の増加、分譲住宅は574戸で同70.3%の増加となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

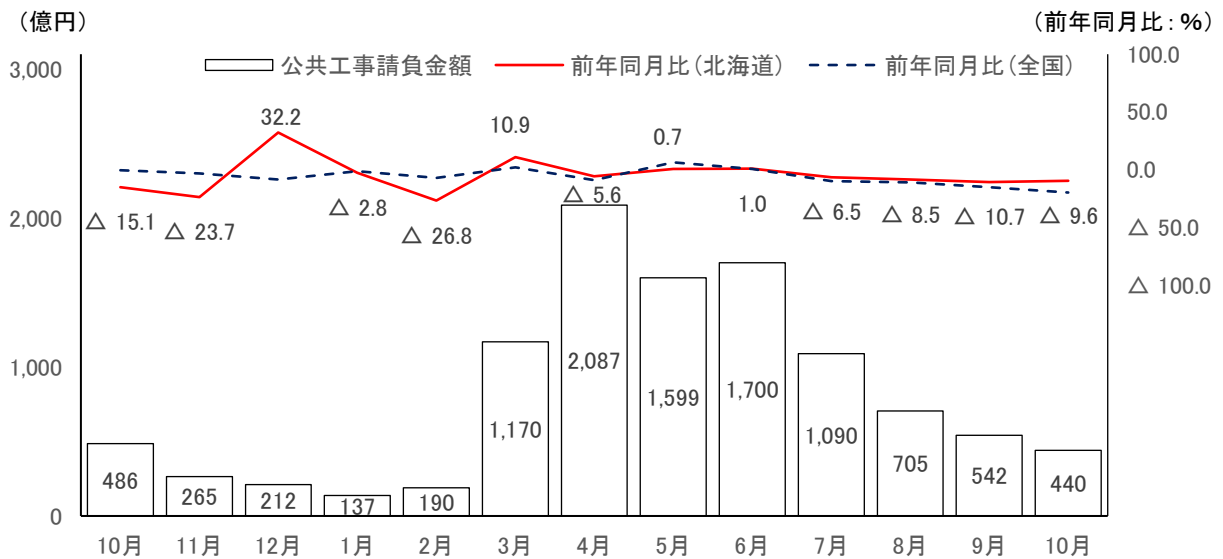


（資料：国土交通省）

公共工事～おおむね横ばいとなっている

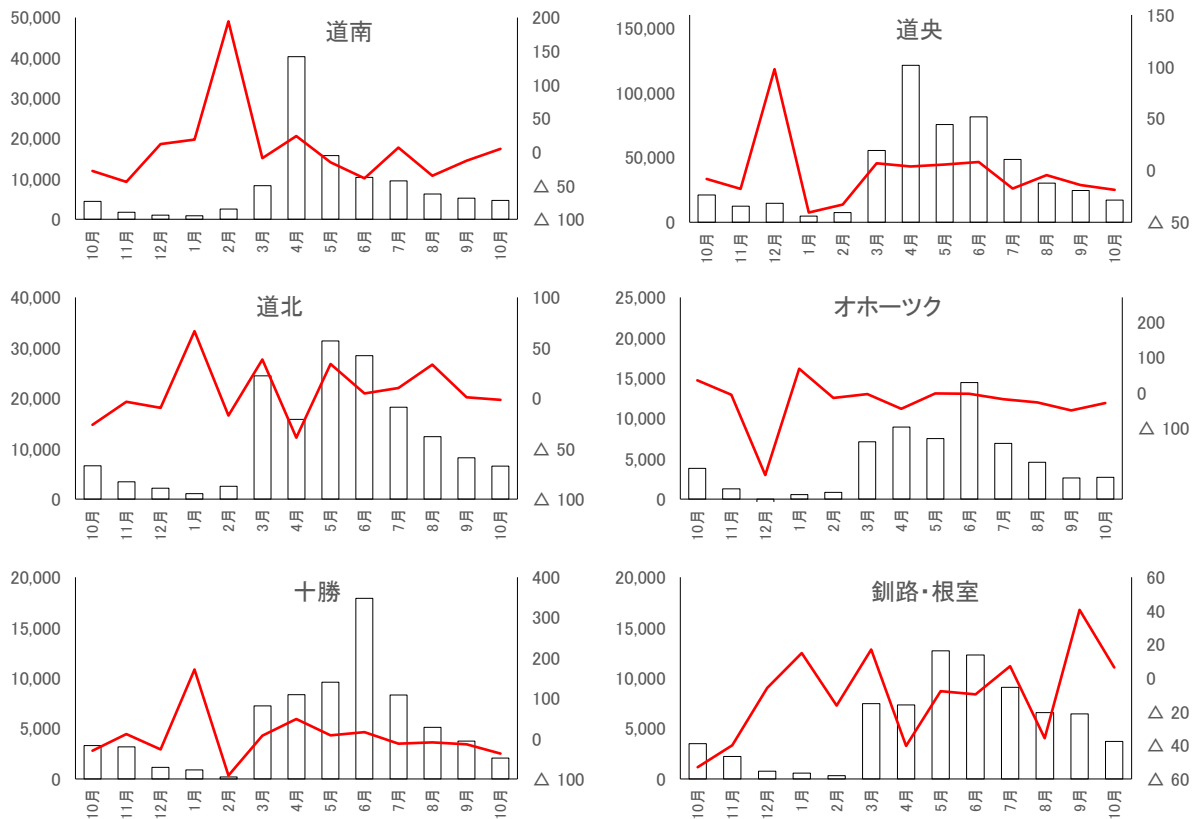
公共工事請負金額（10月）

請負金額は、440 億円で前年同月比 9.6%の減少となり、4 か月連続で前年を下回った。



(資料: 北海道建設業信用保証(株))

各圏域の公共工事請負金額 (左軸: 百万円、右軸: 前年同月比%)

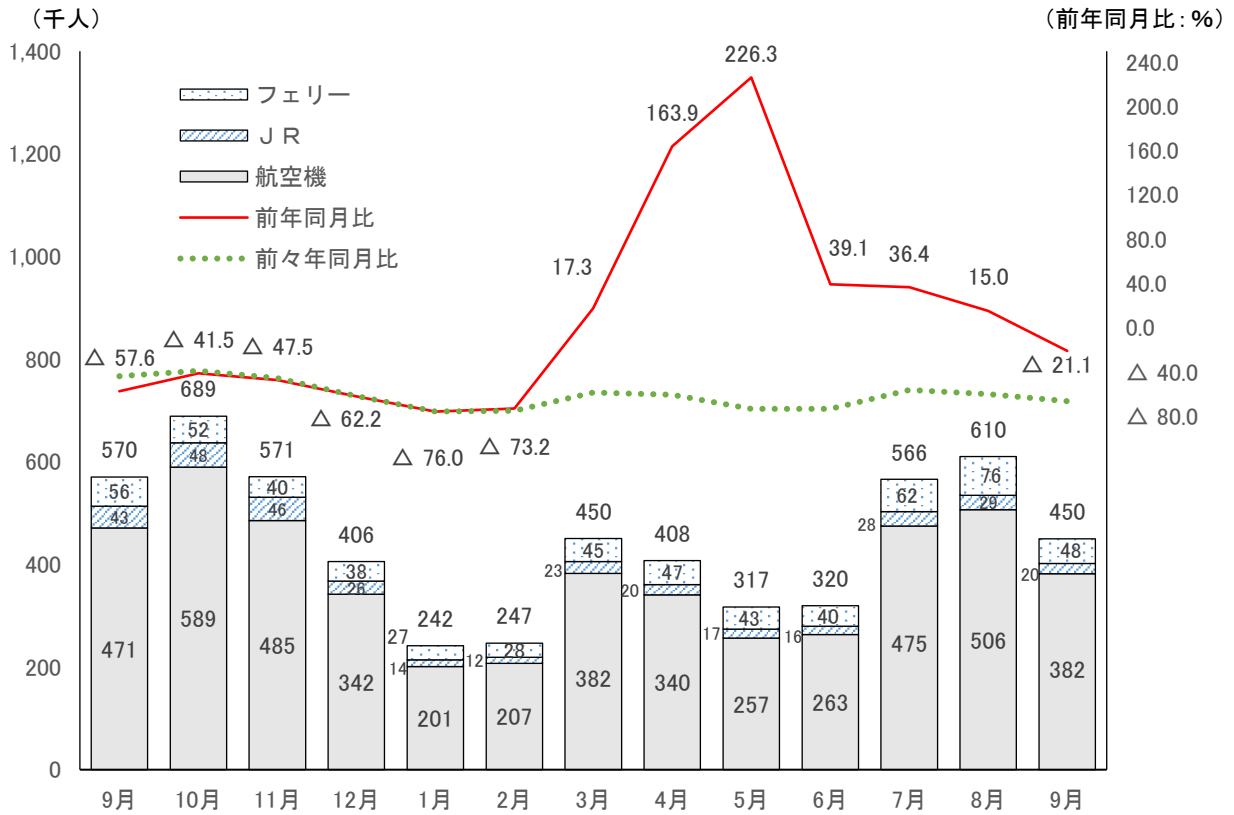


(資料: 北海道建設業信用保証(株))

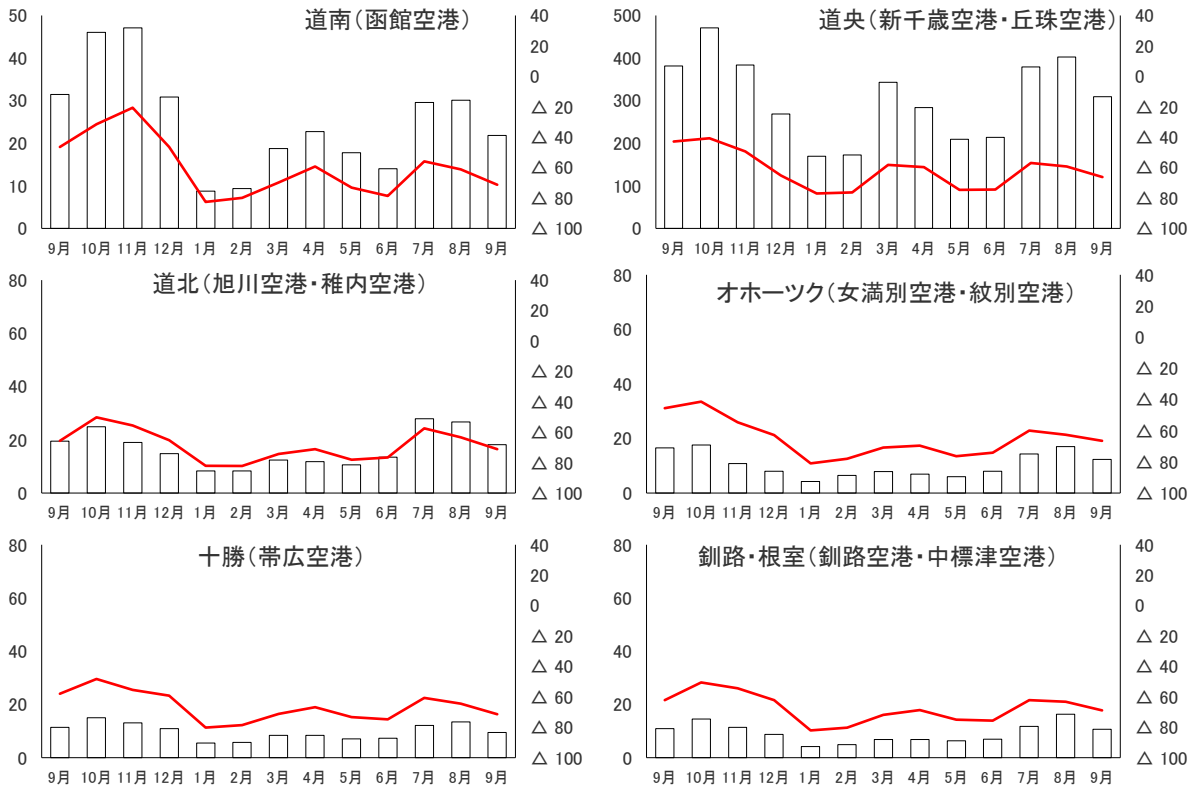
■観光～弱い動きが続いている

来道者数（9月）

来道者数は、45万0千人で前年同月比21.1%の減少となり、7か月ぶりに前年を下回った。



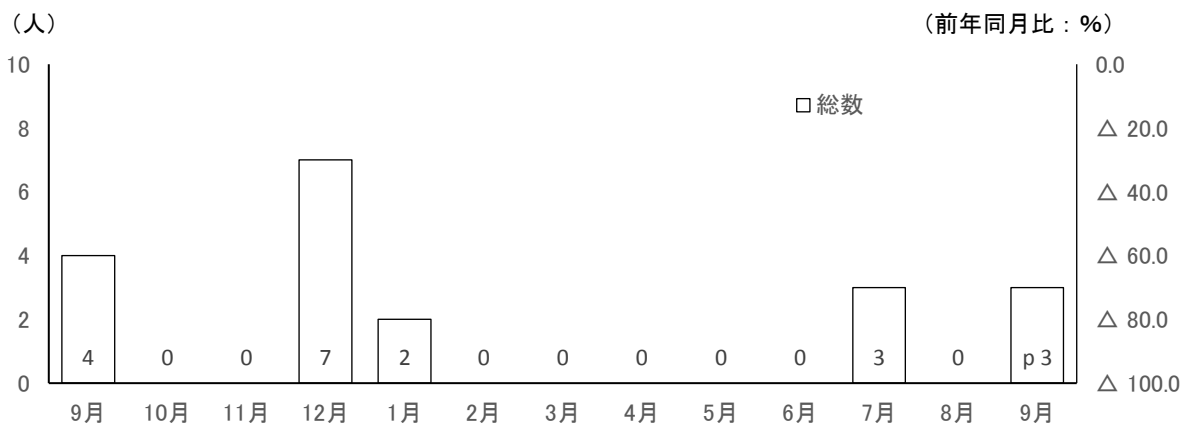
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：令和元（2019）年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（9月）

本道に直接入国した外国人は、3人で前年同月比 25%の減少となった。

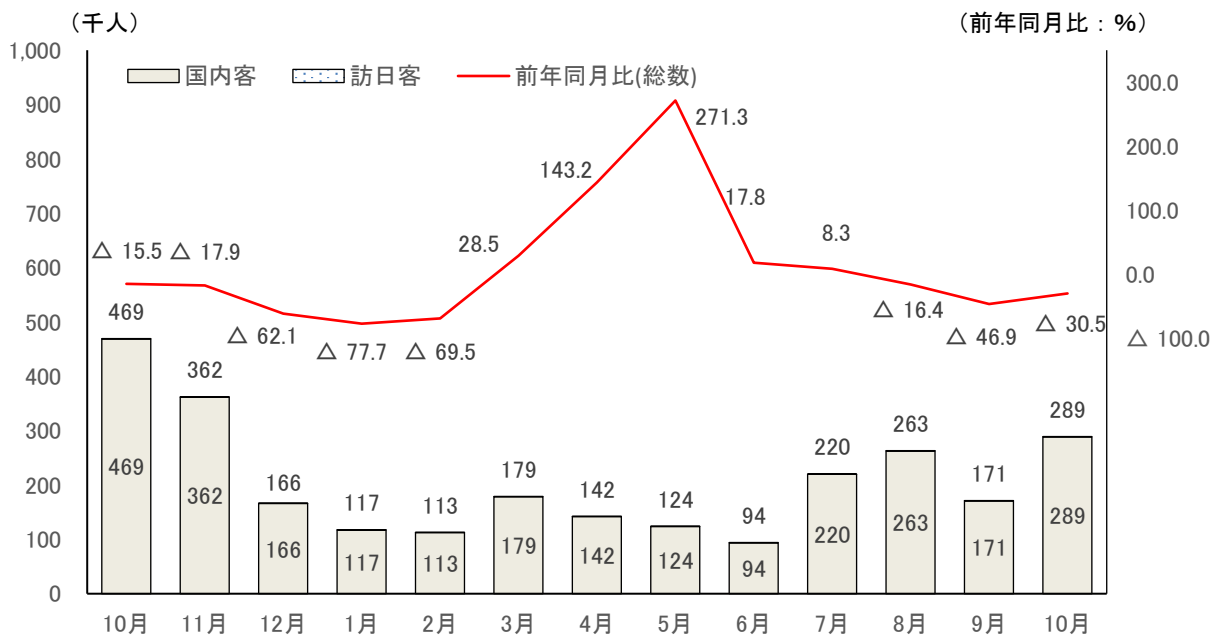


*「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（10月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、288,605 人で前年同月比 30.5%の減少となり、3 か月連続で前年を下回った。

このうち、国内客は 288,504 人で同 30.5%の減少、訪日客は 101 人で同 43.3%の減少となった。

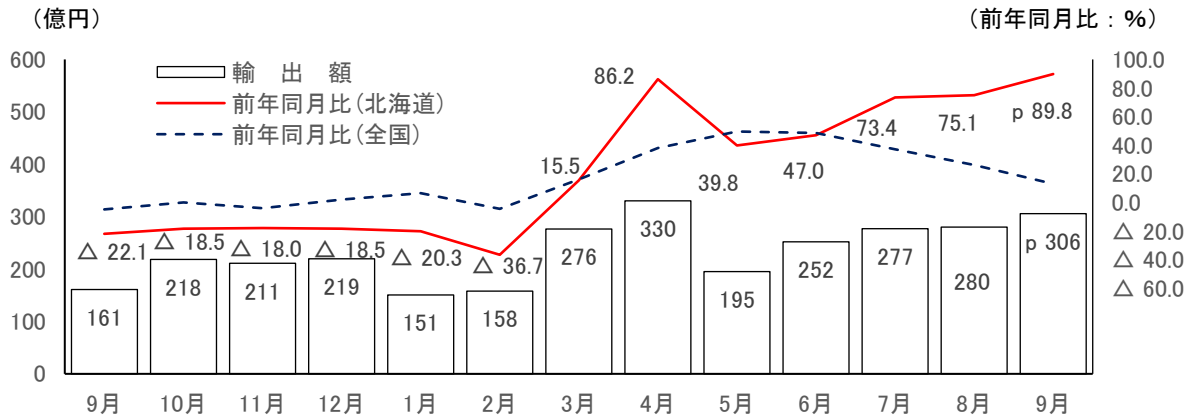


(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を上回った

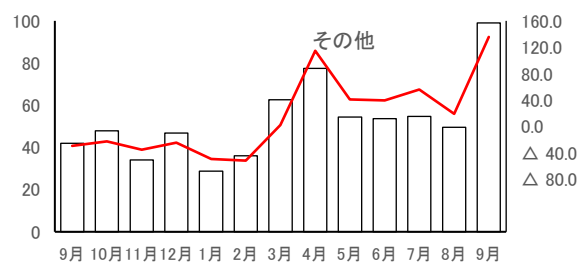
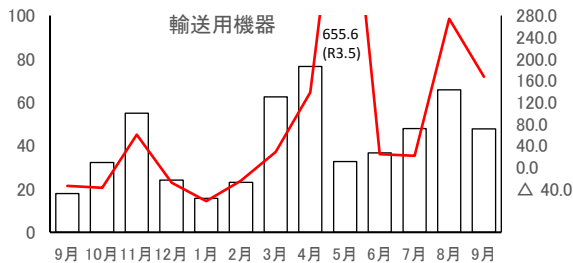
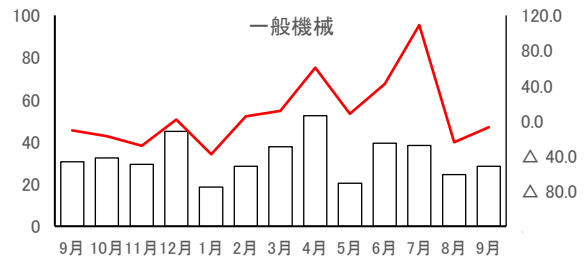
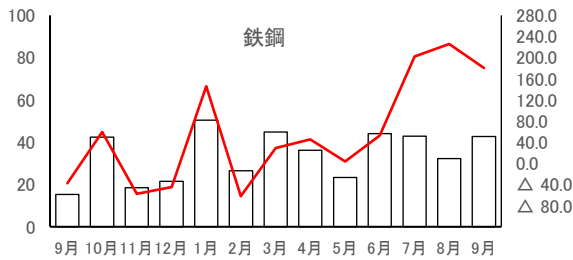
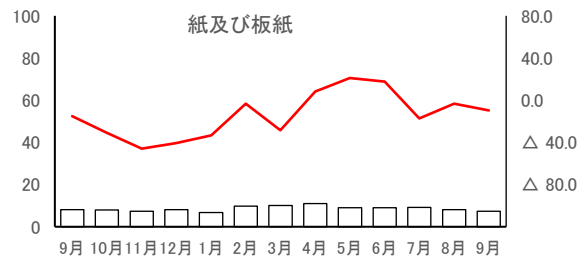
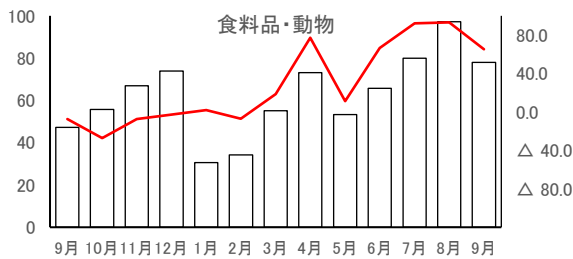
輸出額（9月）

輸出額は、306億円で前年同月比89.8%の増加となり、7か月連続で前年を上回った。
品目別にみると、動物性油脂、一般機械などが減少し、再輸出品、魚介類・同調製品、鉄鋼などが増加した。



*「p」は速報値

■種類別の輸出額（右軸：前年同月比%）

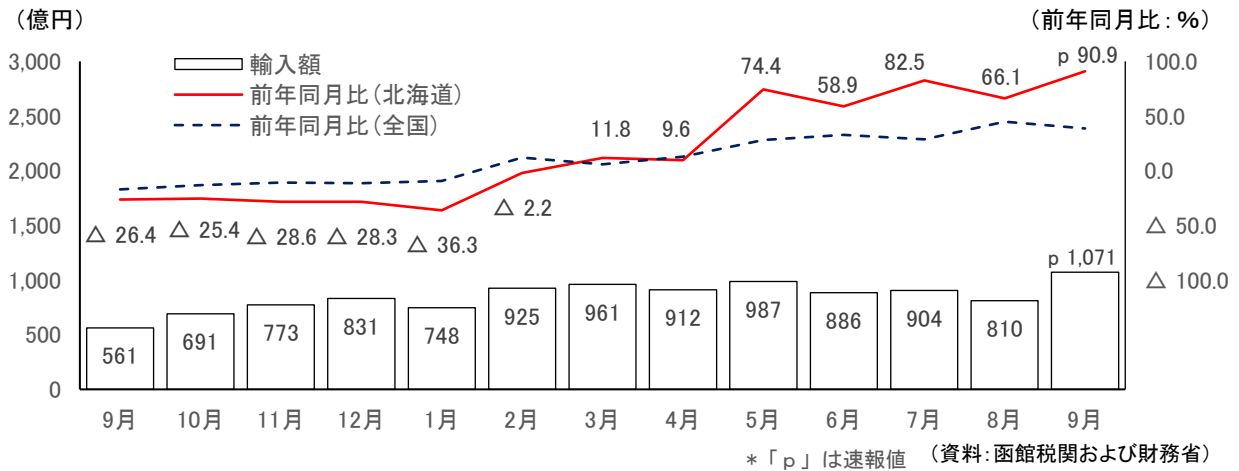


(資料：函館税関および財務省)

輸入額（9月）

輸入額は、1,071 億円で同 90.9%の増加となり、7 か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、再輸入品、電気機器などが減少し、原油・粗油、石炭、魚介類・同調製品などが増加した。



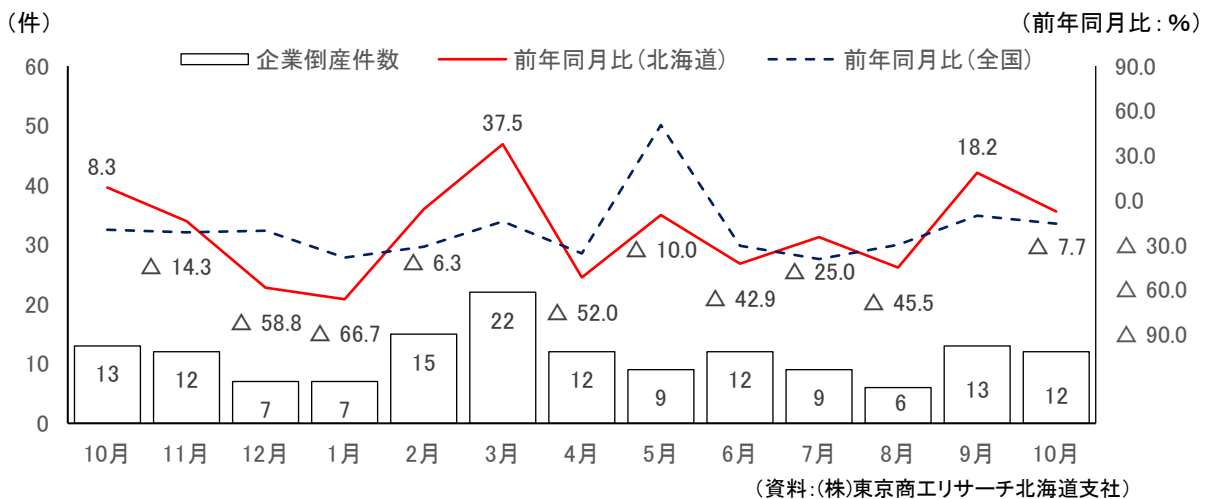
■企業倒産～倒産件数、負債総額とも減少した

倒産件数（10月）

企業倒産件数は 12 件、前年同月比で 1 件の減少となった。

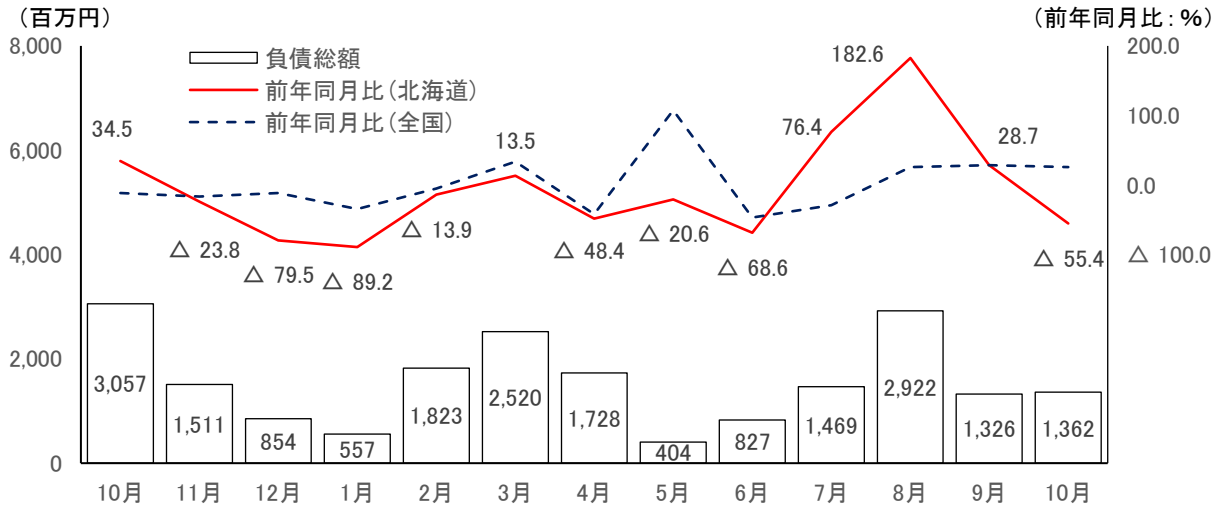
原因別でみると、販売不振が 10 件(構成比 83.3%)、過小資本、偶発的原因がそれぞれ 1 件(構成比 8.3%)であった。

業種別でみると、サービス業が 7 件(構成比 58.3%)、建設業が 2 件(構成比 16.7%)、卸売業が 2 件(構成比 16.7%)、運輸業が 1 件(構成比 8.3%)であった。

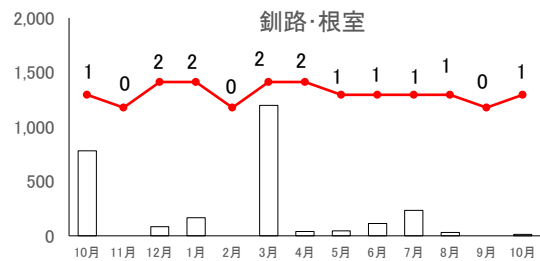
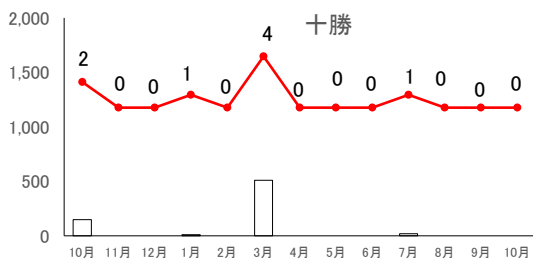
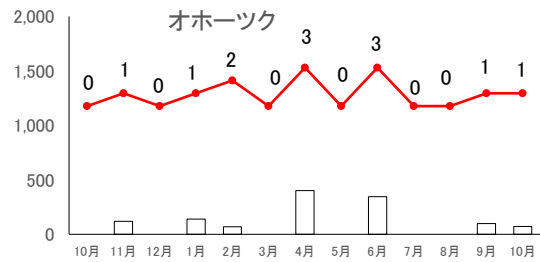
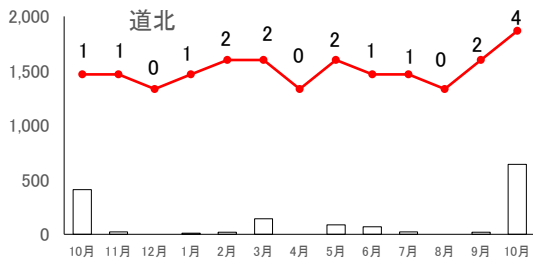
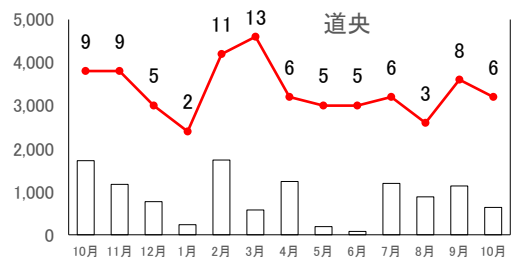
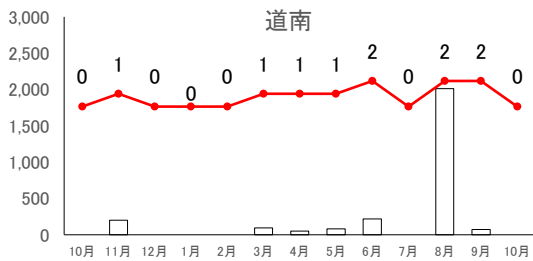


負債総額（10月）

負債総額は、1,362百万円で同55.4%の減少となり、4か月ぶりに前年を下回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



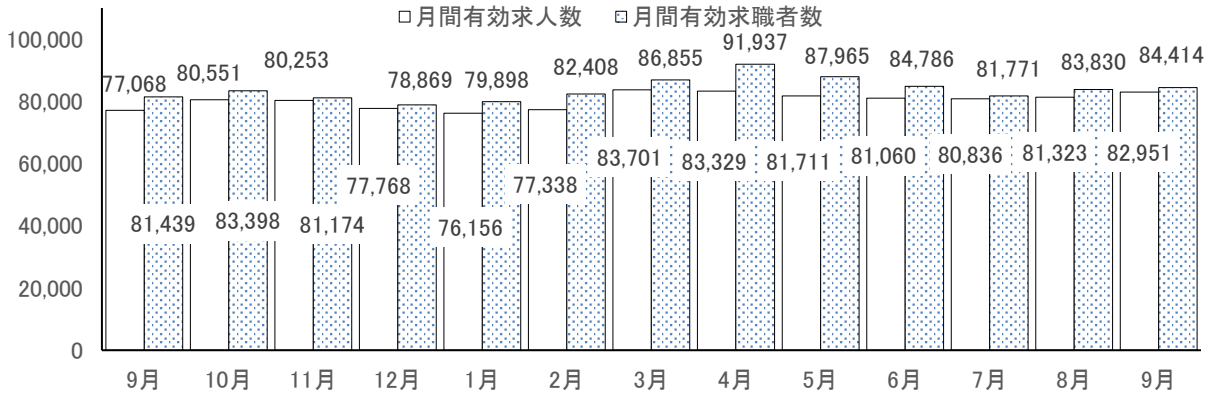
(資料:(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～弱い動きが広がっている

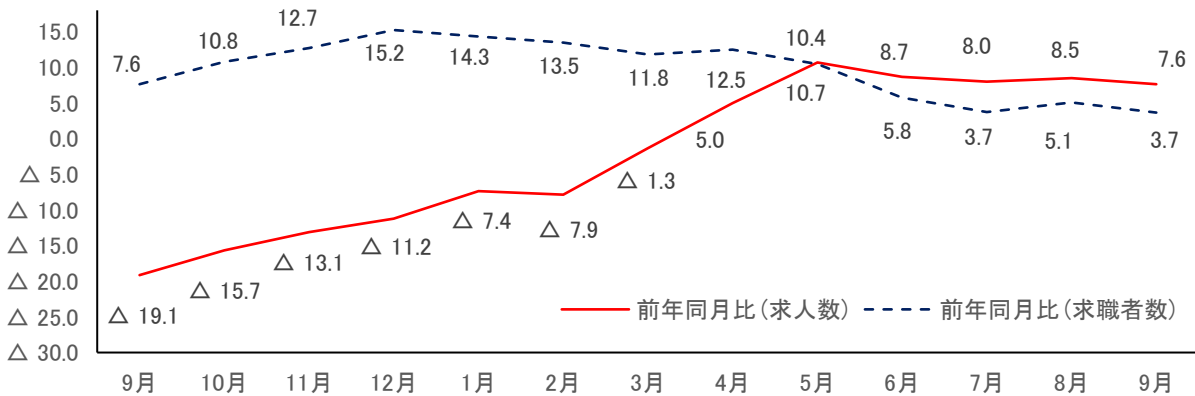
月間有効求人数・求職者数（9月）

月間有効求人数は、8万2,951人で前年同月比7.6%の増加となり、6か月連続で前年を上回った。月間有効求職者数は、8万4,414人で同3.7%の増加となり、15か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



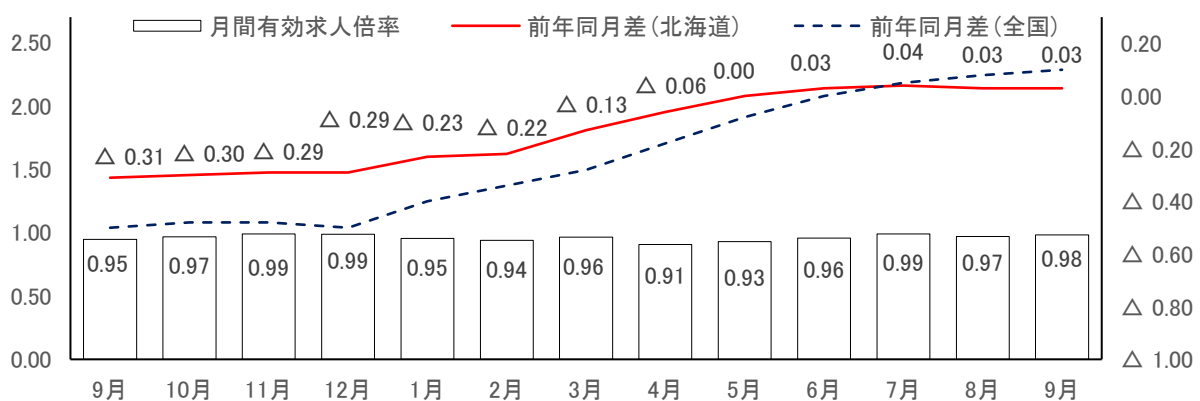
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（9月）

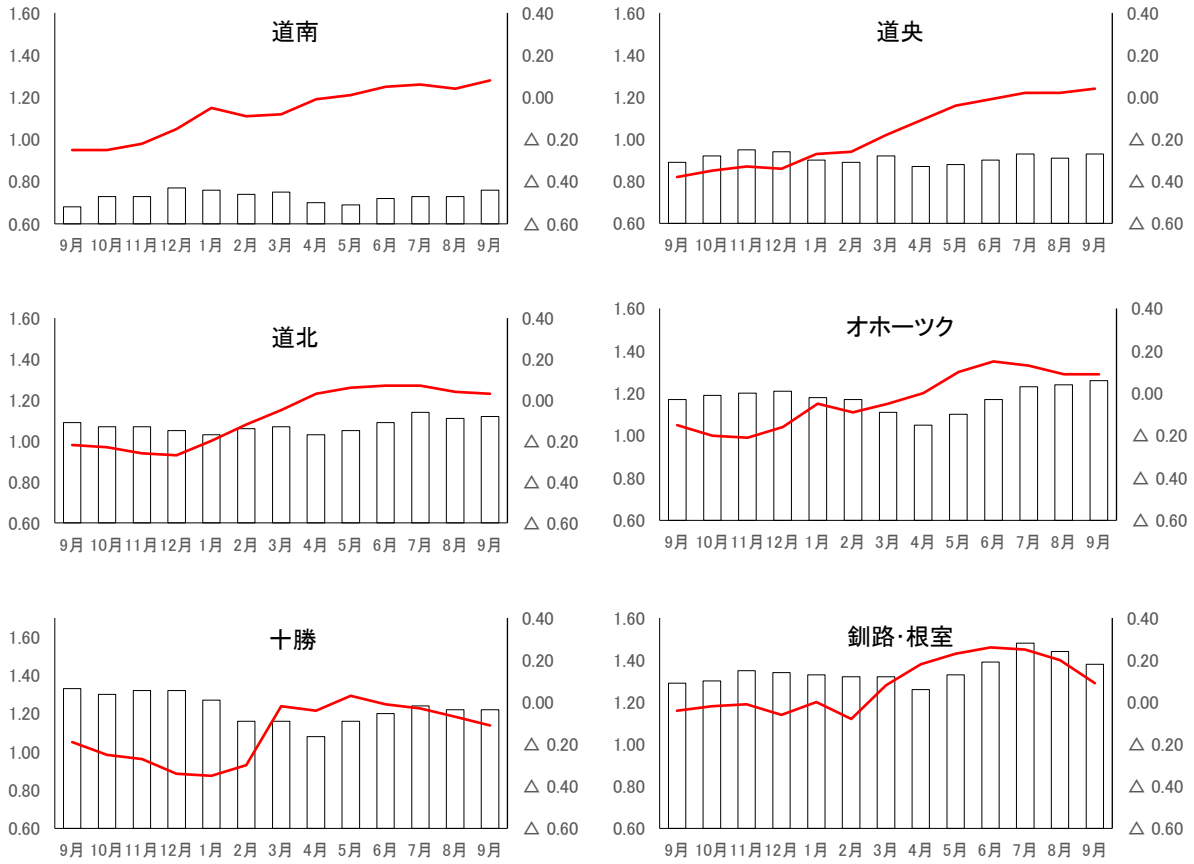
月間有効求人倍率は0.98倍で、前年同月差で0.03ポイントの上昇となり、4か月連続で前年を上回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



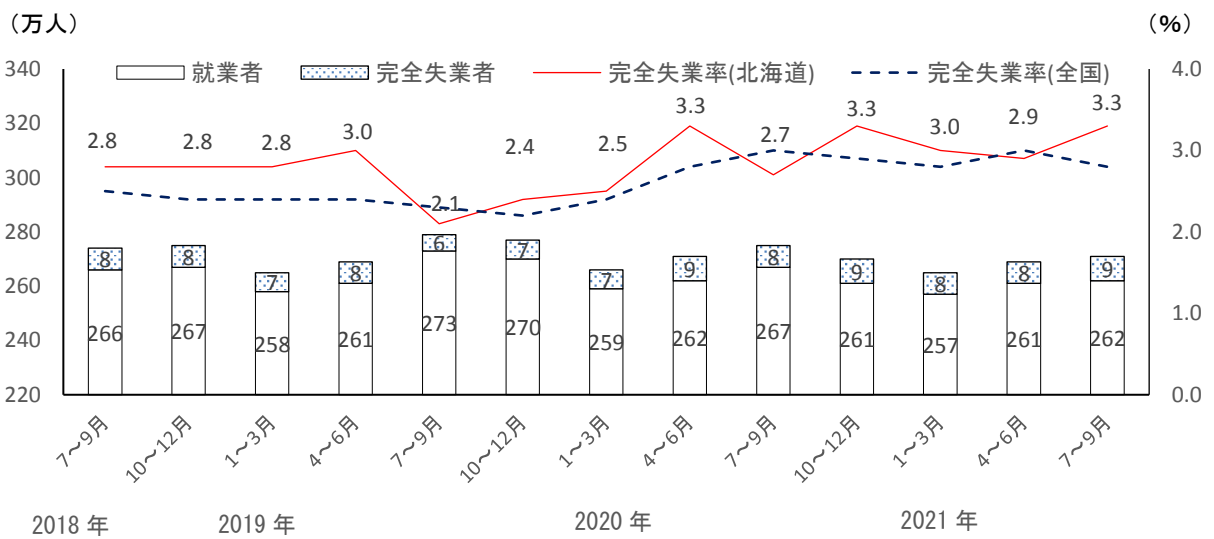
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



（資料：北海道労働局）

完全失業者数、完全失業率（令和3年7－9月）

完全失業者数は9万人で、前年同期と比べ1万人増加している。
完全失業率は3.3%で、前年同期と比べ0.6ポイント増加となっている。

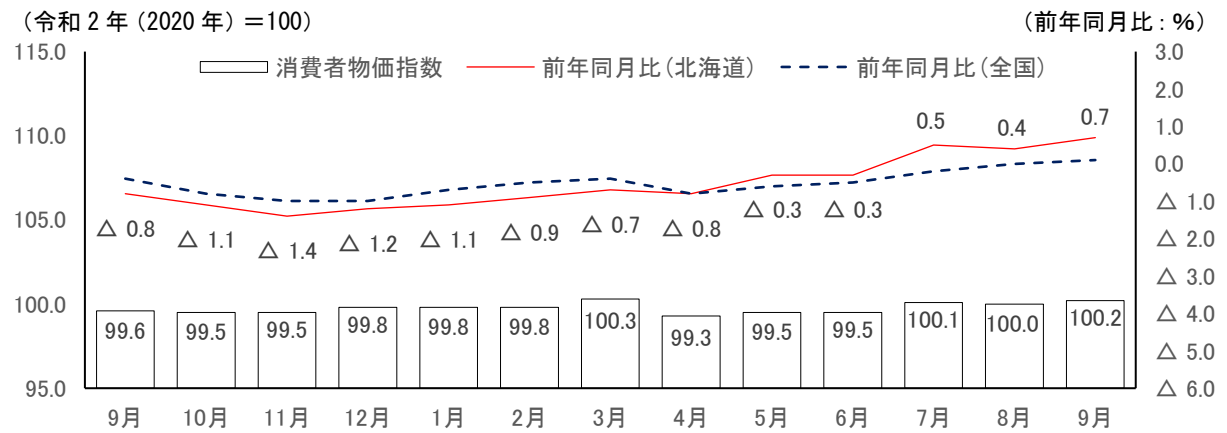


（資料：総務省）

■物価～消費者物価指数は前年を上回った

消費者物価指数（9月）

消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、100.2 で前年同月比 0.7%の増加となり、3 か月連続で前年を上回った。



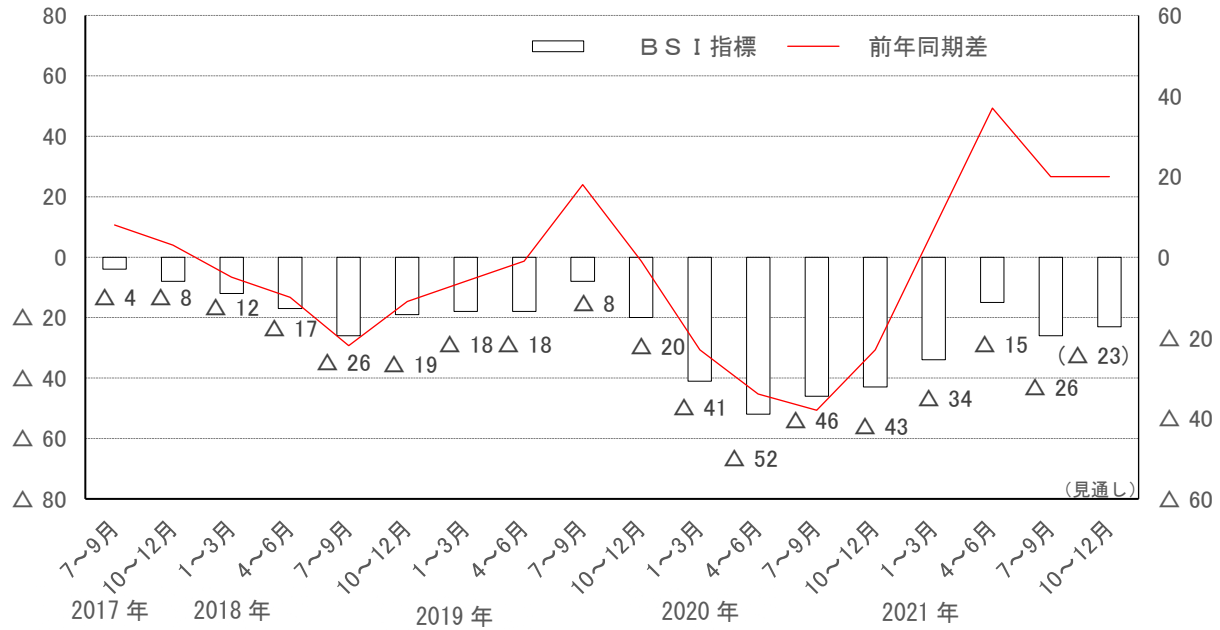
(資料:総務省)

■企業経営者意識調査～前期から下降している

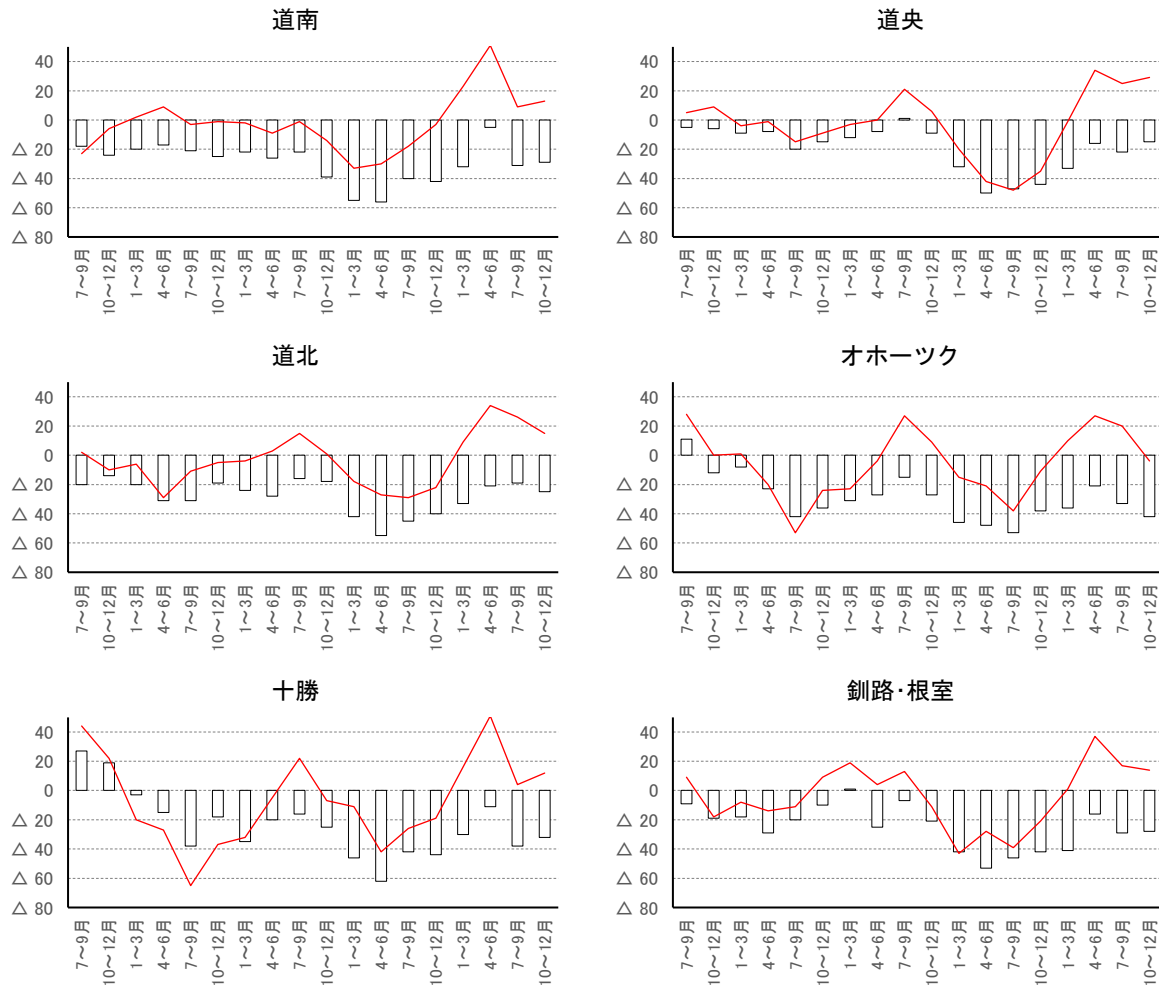
令和3年7～9月期の業況感BSIは△26ポイントで、前期から11ポイント下降しており、前年同期より20ポイント上昇している。来期見通しは△23ポイントで、今期から3ポイント上昇の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差：ポイント)



■各圏域の業況感BSI (折れ線グラフは前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【徐々に客足戻り、外商も好調】

10月に入ると入店客数が週を追うごとに上昇し、それに伴って売上も前年度水準まで回復した。緊急事態宣言の解除に伴う行動制限の緩和で、道内の地方都市や来店を控えていた顧客の来店もみられた。これまで不調だった婦人衣料品も前年度並みに回復し、美術品や宝飾品などの高級品も同様に回復傾向となった。新たな取組として、外商顧客へのヒアリングに基づき、東京から高級ブランド品を取り寄せて実施した販売会が好調だったので、今後もこうした顧客ニーズの掘り起こしを行って、売上向上に繋げていきたい。

また、おせちやクリスマスケーキの予約販売が好調で、有名店や高級店の商品が人気となっている。これまで不調だった食品催事も前年度並みに回復した。

【月後半も回復傾向継続】

10月後半も売上・入店客数の回復傾向が継続し、入店客数の影響を受けやすい食料品も好調となっている。

11月に入ってから、気温が高い日が続いたにも関わらず、冬物の婦人衣料品の売上が好調であり、昨年度コロナの影響で買い物を控えた方や、生産が滞ったために在庫不足で購入できなかった方が購入していると思われる。

◆スーパー（道央地域）

【10月も客数・売上ともに前年を上回る】

緊急事態宣言解除に伴う客数、売上等への影響については、平日は午前中と夕方の集客が強まったものの、週末などの休日は売上・客数ともに減少し、特に好天の場合にその傾向が強かった。一方で、10月全体としては引き続き客数・売上ともに前年を上回る状況が続いている。

商品価格の動向については、食用油、マヨネーズ、マーガリン、小麦粉、パン粉などの仕入値が上昇してきている。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【人の動きが徐々に回復】

10月は緊急事態宣言が解除となり人の動きが徐々に回復していることと連動し、弁当や飲料などが好調に推移した。その反面、家庭内で消費される商品の需要は落ち着きつつあり、前年の需要増の反動減がみられる。

店舗別では、繁華街やオフィス街での売上が徐々に回復してきており、日によっては前々年並に戻っているが、人の動きが居住エリアにとどまっているためか、観光地では本格的な動きとなっておらず、回復が遅れている。

最近の経済動向

令和3年11月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>